

東京都立神代植物公園椿講座講演報告

日時 平成30年3月10日（土）午後1時30分～午後3時30分

場所 東京都立神代植物公園（植物会館）

参加者 約60名

講師 小泉不二男（茨城つばきの会事務局・一般社団法人日本ツバキ協会理事）

演題 椿の歴史と江戸ツバキ



神代植物公園は、江戸椿を集めた椿園があることで椿ファンにはよく知られた公園です。茨城つばきの会でも何度かバスツアーでの見学会を実施してきました。

今年は、3月10日～4月8日の間「椿・さくらまつり」が開催され、その一環として講演会が開かれました。まつり期間中には、日本ツバキ協会の江戸椿研究会による見学ツアーも開かれることになっています。

当日の講演会場には、図鑑を手に講演に耳を傾ける方なども見受けられ、熱心な雰囲気でした。講演内容は以下のとおりです。

- 1 椿の魅力 ～古くて新しい花～
- 2 白椿 ～椿の出発点～
- 3 庭園・茶の湯と椿 ～室町時代・安土桃山時代～
- 4 中国椿との交雑が推測される椿 ～勘合貿易（室町時代）・朱印船貿易（安土桃山時代）～
- 5 椿の流行の始まり（江戸時代初期 元和・寛永時代）
- 6 江戸時代の椿 ～江戸椿～
- 7 染井村（江戸）の発展 ～植木の里 椿の生産～
- 8 江戸椿はどこから来たのか ～ユキバタツバキ～
- 9 寛永以後の椿の流行
- 10 椿の衰退 ～江戸時代末から昭和前期まで～
- 11 椿の海外進出 ～世界中で大ブーム～
- 12 椿の復活 ～戦後～
- 13 椿の今 ～最新の椿の話題～

参考までに講演要項の一部を掲載します。

2 白椿 ～椿の出発点～

○万葉集（奈良時代）巻1 - 56に以下の歌がある。

川の上（へ）の つらつら椿 つらつらに 見れども飽かず 巨勢（こせ）の春野は
意味：椿の花が美しい。川のほとりに点々と連なって咲いていて、いつまで見ても飽きない。本当に、
巨勢の春はいいものだ。

○茨城県鹿島灘沿岸はヤブツバキ（藪椿・山椿）が多く、日本有数の椿地帯。
海風を防ぐための屋敷林として大切にされてきたため大木に成長した椿も多い。



長崎県上五島町椿公園のヤブツバキ
第28回全国椿サミット上五島大会
(H.30.3.4) 来年は御殿場市で開催



鹿島のヤブツバキ
花形は、九州より大きく
色も桃色で奔放な印象。



鹿島のヤブツバキの古木
鹿島のヤブツバキの太郎。
目通り周2m超。推定樹齢400年

○鹿島の民家に白椿が散見される。ヤブツバキは、ときに白花に変化。自然に生えた野生の白椿を家の周りに植え、観賞用としたものであろう。

○日本人は、古来より白椿をめだたきものとしている。白玉椿などと称し今も茶席を飾る椿の筆頭。「白玉初嵐」「加茂本阿弥」等の白一重園芸品種は人気が高い。

○日本書紀（奈良時代）に吉野の人、宇閉真弓が天皇に「白海石榴（しろつばき）」を献上した記録がある。（巻21）海石榴は椿の中国での古名。唐末以降「山茶」。日本で「山茶花」はサザンカ。椿は和字。



鹿島の白椿



鹿島の白椿の古木の1つ
民家の周囲に植栽され大木に成長

ヤブツバキが変化した椿（茨城で見つかったもの）



鹿島花香殿（鹿島）
雄しべがシャクヤク様に変化



里の娘（龍ヶ崎：椿の小径）
茨城つばきの会野口宣二氏命名



鹿島潮風（鹿島）小泉命名
鹿島灘の海岸で見つけ挿し木で育成。